

第55回市民ふれあいトーク = 自然を生かすまちづくり =

日時 平成26年8月30日 15:00~16:30

場所 倉敷市役所 207会議室

要約版

市長

皆さんこんにちは。今日は大変お忙しい中、また子どもさんとかお孫さんがいらっしゃるところは夏休み最後の土日ということで、宿題のお手伝いがあった方もいらっしゃるんじゃないかと思います。今日は第55回目の市民ふれあいトークで、「自然を生かすまちづくり」をテーマにして、皆様と意見交換をさせていただければと思っております。

昨年の平成25年春に、「花と緑」をテーマに市民ふれあいトークを開催しましたが、その時にも皆様から良いご意見を頂きまして、参考にさせていただいております。その中で、是非取り組んでいきたいということで今やっておりますのが、お手元のレジメ裏ページに倉敷市民憲章が印刷されていると思います。ご存知のように、市民憲章は、「私たちは、日本のふるさと瀬戸内海と母なる高梁川にはぐくまれ、古い伝統と洋々たる未来にかがやく倉敷市民の誇りをこめて」と、一番最初に「自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境をつくります。」というのがございます。昨年の市民ふれあいトークで、市民憲章に「自然を生かし緑と花のある」とそれだけじゃなく、文化を大切にとか、良いことが書いてあるのにこれを知っている人が少ない。特に子どもがあまり知らないというお声をいただきまして、教育委員会に話をしました。道徳教育とか国の方でも言われておりますが、倉敷市でもご存知のように、お勉強のテストの方が成績が悪いということ、非行の子どもさんの数が教育委員会も頑張ってくれているんですけど、前に進まないということもあり、悩んでおりました。この市民憲章を使って、子どもの頃から自然とか、花とか緑、そういう情操教育や道徳、徳育にも繋がるようなものをということで。この夏休みに小学校、中学校の体育館に学校の校歌が掲げてありますが、反対側の体育館の壁に、市民憲章を大きく引き伸ばしたものをパネルにし、全部の学校に設置をしてくれていると言っております。今後終業式とか始業式、入学式とか卒業式、節目の時に学校の校歌を歌ったりするのと同じように、市民憲章をみんなで理解をし、最初は子どもさんですから、丸覚えのような形になるかと思いますが、一つ一つ自分たちの生活の方に入って行くようになればと思っております。ちなみにこの市民憲章が出来ましたのは、昭和47年です。昭和42年に倉敷、児島、玉島の3市合併があり、それを記念して市民の皆様から成る起草委員会を作ってください、倉敷市がどういう方向でやっていこうかということをもとめて下さったのが、この市民憲章です。当時から特色のあるものでございまして、文章の最後は「～のまちをつくります。」とか「文化をつくります。」となっています。これは自分たちがこういうことをしていこうということをも自分自身で宣言をしたと、多くが市の行政の側でまとめたものを皆さんが了解したという形ではなく、自分自身が宣言していこうという形になっております。特色のある、本当に40年以上前に作ったとは思われない大変良い市民憲章だと思っております。私の公約もいつもこれを参考にし、町がよくなるように頑張っております。

さて、「自然を生かすまちづくり」でございまして、倉敷市の中で、皆様にご協力をいただいて、まちの自然環境、花と緑の環境が保たれていると思っております。自然と言いますと直ぐ思い浮かぶのは、市の鳥がカワセミとか、市の木がクスノキだったり、市の花が藤だったり、阿知の藤から来ております。今の大きな市の施策としてやっておりますのが、

倉敷市は一番早くから倉敷市自然環境保全条例が昭和49年、ちょうど40年前にできました。早くから環境のことに取り組んできて、緑の計画、今では倉敷市の水と緑のシンフォニー計画という計画となっておりますが、皆さんとともに進めてきております。一番最近では、生物多様性の戦略を策定して、その時お世話になりました河邊先生、今日ここにお越しいただいております。大変ありがとうございます。市として、これからの倉敷市、岡山県や世界の環境を見据え、どういうふうに自分たちがやっていこうかということを作っていたいただいた計画でございます。

倉敷市といたしまして今、どういうことを行っているか、お目につく中では市内の各地区になるべく公共施設とか大きな施設をつくる時には、一緒になって緑の公園、緑の部分を増やしていくようにいたしております。最近で一番大きなものは倉敷駅北のチボリ公園の跡をどうするかという時に、皆様とご相談し、倉敷市の大きな公園を造ろうということで、商業施設だけではなくて、真中に非常に大きな公園を造りました。両側の商業施設の方も市の指定木である大きなクスノキをその中に取り入れたものを造ってくれておりまして、最近東京から観光に来られた方が、商業施設の中に大きな緑を取り入れたりというのは、関東とかではなかなか無いんですけれど、真中にこれだけの大きな公園があって、親子で遊んだりしているのを間近に見られるというのは、本当に町が自然豊かな緑の町だということを書いてくださっており、私も嬉しくなりました。平成23年に倉敷みらい公園、それから平成24年に玉島みなと公園を造りました。児島では、児島市民交流センターをオープンしたんですが、その時にも東側の所の広場を芝生化してありまして、玉島の市民交流センターにも交流センターの再編とともに大きな公園を造ったり、それから今現在は水島の中央公園のリニューアルをする時に、今まで噴水公園の所で最近使い勝手が悪くなっておりましたので、芝生を広く使っていこうというようなことをやっております。大きな公園だけ造ればいいわけではございません。なるべく皆さんの身近な所へ、例えば公園とか、市民農園とか、できるものがあればやっていきたいと思っております。公園の環境整理とか、それから学校の校庭の芝生化を1年間に何校かずつ進めています。

それから倉敷市には大変大きな、歴史のある施設がございます。ご存知のように大原農研が今からちょうど100年前、芸文館の前の所にオープンし大原孫三郎さんが作られたわけです。今年100周年で、今では岡山大学の資源植物科学研究所になっており、全国の中で唯一国立大学の農学系の大学付属研究所ということで大変権威のある研究機関でございます。1年に1回我々にもオープンしていただけるんですが、大学の研究所ということで近づきにくい感じもあるんですが、折角ですので後で学生さんの方から自分たちはこういう研究をしているという話をさせていただければ、大変身近に感じるのでもよろしく願いしたいなと思っております。

また、市の旧庁舎の所に自然史博物館がございます。31年前にオープンして、自然史博物館は全国の中でも非常に皆様から尊敬されているといいますが注目されている自然史博物館になっております。開設にあたっては多くの皆様にお世話になりました。そういう活動をしていただける皆さんがいらっしゃるからこそ、この自然を生かすまちづくりだと思っております。倉敷のまちづくりの中で私は自然は非常に大切なものだと思っております。50万人近い大都市の中、これだけ町の中に縦横無尽に水路が走っている、子どもたちが学校で田んぼの経験をしたりしている都市はなかなかないんじゃないかと思っております。倉敷市は大きな都市でありながら、自然にも親しめる町にしていきたいと思っております。

ので、そういうことに関します皆様のお考えとか、日頃取り組んでいただいていることを今日是非教えていただいて、市政の今後の参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

参加者 A さん

児島で小学校教員をしております。タイムリーなんですけど、先ほどまで児島で子ども達と一緒に自然を生かすまちづくりのイベントをやっております、今帰ってきたところです。子ども観光大使といいまして、住んでよし、訪れてよしの児島の良さを発信するというので、子ども達と一緒に企画をしてきました。

今日は下津井でところてん作り。ところてんは瀬戸内の恵み天草で、洗って、炊いて、冷やして食べるというところまでやってきました。子どもたちが倉敷市、お隣の岡山市、総社市を含め14人、スタッフ、様々保護者を含め41名でやってまいりました。

3つの条件を満たせば子ども観光大使に認定されます。1つ目に倉敷子ども観光大使の5回以上の活動の内、1回参加する。年5回あり、その内の1回目が今日でした。2つ目に観光八ガキ、動画、写文俳句などで倉敷市の良さを発信する。3つ目、子ども観光大使検定に合格する。ということです。今、子どもたちを狙う不安な事件が賑わせているんですけど、そんな時こそ、教員と地域の人たちと保護者と力を合わせて子どもたちを育てていく、そういう企画が必要ではないかと思っています。子どもたちの感想は「もっと児島のことを発信したいです。」「ところてんを作れてよかったです。」、参加された保護者の方の感想は「子ども自身がこの町を好きになり、これを持って世の中の中でいてもらいたいです。」「永年、下津井に住んでいても、知らなかったことを発見させていただき楽しかったです。これからも地元大好き子に育てて欲しいです。」ということでした。

天草からところてんを作るだけじゃなく、この間に冷ますという工程があります。その空いた時間を利用して、下津井の町を散策しました。そして発信するというのがこの企画の目的ですので、写文俳句という私たちT O S Sという教員の団体、全国で1万人位の教員中心の団体でやっているんですけど、写文俳句というのを作ってきました。写真、文章、俳句というのを作っています。2年生の女の子が「ところてん 天草使い カルシウム」、
「ところてんは天草、ワカメを使って作ります。体にも良いし海をきれいにする元です。ところてんを作るのが楽しかったです。」「ツメレンゲ 咲いている家は 古い家」、ツメレンゲがいっぱい咲いていて面白かったです。6年生「瀬戸内の 誇りの大橋 ここにあり」瀬戸大橋をパッと見て、水平線の手前に瀬戸大橋が見えるなという感じから句を作りました。今日3つの条件をどの子も満たして、全14人が子ども観光大使に認定されました。

市長へ3つのお願いがあります。1つ目に、可能でしたら県内のどこかの会場に参加していただいて、子どもたちの活動を是非見ていただきたいなと思っております。2つ目に、もし厳しかったら、応援メッセージをいただけたらと思います。3つ目に、認定証というのがありまして、今日は観光ガイド協会児島の顧問をされている方などが認定をしてくださったんですが、子どもたちがもっと喜ぶのは市長の認定でやらせていただけないかと、それを強く希望しているところです。

市長

さすが学校の先生、発表が素晴らしいですね。みんな子ども観光大使に合格してよかつ

たですね。市が教育委員会の後援をさせていただいて、というのは知っていたんですが、活動の内容までは詳しく存じ上げなかったもので、はじめて詳しく伺いました。年内にあと何回されるんですか。(4回します。)行ける日程があったらと思っております。もし行かれなかったら、必ずメッセージを出します。今年は瀬戸内海国立公園の80周年の記念の年ですから、児島がもっと全国に知ってもらえるようになったらいいなと思っております。問題は認定証です。今すぐここでできますと申し上げるのは難しいんですが、子ども観光大使という制度は、学校の先生でされている分なんですか。

参加者Aさん

T O S Sという教員の団体がありまして、小学校でやっているというわけではなく、任意の団体として、休日のボランティア活動をやらしてもらっているんです。子ども観光大使実行委員会というのがありまして、それはT O S Sの教員と議員さんとか地域の方と一緒に作っている団体なんですけど、先進的な地区が栃木とか静岡とかありまして、岡山はまだ全然やられてなかったんですが、今日がその1日目だったんです。栃木とかは市長の認定証というのを作っていたりとか、全国大会も来年栃木でやられまして、岡山の子どもたちが地域に誇りを持ってもらって、発信してもらおうということは観光立国にも繋がっていきますし、2020年のオリンピックにも地域の良さから岡山県の良さ、国の良さにまで繋がって来るんじゃないかと思うんで。

市長

市も後援をしておりますので、何らかの形で子どもさんが市長も認定してくれているというのが、わかるような形にできればと思いますので、認定証になるかどうかは市の色々な厳しい手続きもあるものですので、すぐにここでOKと申し上げられないので、非常に良い取り組みを行っていただいているのはわかりました。

参加者Bさん

先ほど市長さんのお話にもありましたけれど、私は自然史博物館友の会のお世話をさせていただいております。勤め先が2年前まで岡山大学資源植物科学研究所におりました。自然史博物館友の会は設立してまだ20年なんですけど、現在の会員数は1000人足らずです。年間の行事予定表を作っているんですが、毎年11月3日には自然史博物館まつりというのを開催しており、伊東市長さんも毎年参加してくださってありがとうございます。あの小さな博物館にほぼ1万人近い方が1日に来られます。是非皆さんも11月3日には博物館に遊びに来てください。1年間の行事予定表は皆さんにお配りしているんで、それはゆっくり見ていただくとして、その中のみらい公園の生き物調べについて、中心的に話をさせていただきます。みらい公園というのは2011年の11月にスタートしましたが、それに合わせて翌年4月から1年に4回各季節に、みらい公園にどのような生き物が住んでいるかというのを調査して記録しています。標本にも残していつているんですけども、そういうことを繰り返していつて、みらい公園が生物から見て良い方向に進んでいくのか、あるいは荒れ果てていくのか、そこらへんを見届けたいと、立って見るだけじゃなくて力も出しますが、やっていきたいと思って活動しております。

みらい公園の特徴は市長さんもお話されましたが、町なかにある。皆さんに大自然の中

に飛び込んでいってくださいと言いたいんですが、それが直ぐにできない人もおります。あそこに買い物に来たついでに自然を観察できるし、ほとんど危なくありません。そういう意味でも本当に良い所だと思っております。その中で私たちは3年目になりますけれども、各季節に調査した結果ですが、植物、昆虫や鳥類、それから水路の中の魚や貝、そういうものを調べています。野鳥は毎月調べておられます。8月にあったんですが、毎年セミの抜け殻調べというのをやりまして、みらい公園にどういいうセミがいるか、抜け殻で勘定するんですが、年々どう変わっていくかということ調べています。それらは博物館のホームページを見ていただくとわかります。ミンミンゼミがおったとか、クマゼミが増えきたとか、ということがわかっていくと思います。

植物は栽培品が多く、園芸のものがたくさんありますが、それを合わせて428種類の植物を見つけています。市長さんや子どもたちで植えられたクスノキの成長も記録しています。クスノキだけじゃなくて、あそこにある大きな木は全部、太さと高さを測っていますので、どんだけ大きくなっていくかは何年か経てば、わかっていくと思います。

魚は、あそこの中に倉敷用水というのが流れておるんですが、残念なことにチボリ公園を造る時に3面コンクリートにしてしまったんで、魚たちにとって良い環境ではないんですが、酒津から来る水が非常にきれいなんで、砂地の所も含めて19種類の淡水魚が見つかっています。その中には4種類の絶滅危惧種が含まれています。

このように市民の方が簡単に訪れる所なんで、ここにはこういう生き物が住んでいますというパンフレットを作りたいと思っているんです。私たち友の会は会費でやっているのでも、作ることができない。誰かに頼んでみたら、スポンサーが見つかるのではないかとか、何でも知恵をお借りしたいと思っています。

市長さんも先ほど言ってくださいましたが、倉敷の自然史博物館というのは、日本で3番目にできた市立の自然史博物館です。大阪と北九州はすでにものすごく大きくなりました。次は倉敷の番ですので、倉敷の自然史博物館をウンと大きくして欲しいと思っています。標本も70万点あります。開館の時に1万点ぐらいだった。31年経つと70万点に増えていますので、博物館も含めてよろしくお願ひしたいんです。友の会は博物館まつりだけじゃなくて一生懸命手伝ってますんで、是非ともよろしくお願ひします。

市長

自然史博物館友の会で大変お世話になっておりまして、ありがとうございます。今日は会員の皆様も来てくださっていると伺っております。自然史博物館は、重井博先生、それから山本慶一先生、榎本敬先生、大変ご尽力いただきましてオープンすることができ、多くの方にご利用いただいていると思います。11月3日の自然史博物館まつりは、1日で1万人近くの来場者の方が来られるというのも、本当に市の中でも1日で来場者が一番多いイベントじゃないかと思ひます。

みらい公園の生き物を調べていただいたり、この前も一緒に木を植えていただいて、またレッドデータブックに載っている魚もいる、あれだけ町の中にあつて自然が残っている大きな都市は珍しいんじゃないかと思ひしております。この状態を是非これからも続けていけるように市としてはそういう思ひであります。どんなパンフレットでしょうか。

参加者Bさん

カラーのパンフレットで、ご自由にお持ち帰りくださいというような形で渡したいと思っています。みらい公園のどこかに、自然が好きな人がそこを歩いていたら持って帰れるようなものが作ればと思っています。データは十分ありますし、スタッフもあるんですが、お金だけがないんです。

市長

みらい公園の中に露天で置くわけにはいけないので、両方の商業施設に倉敷市の観光パンフレットを連携協定で置いてもらっているんですが、その中に、それを取って散策してもらえらるようなものを置いてもらえるように頼むことも可能ではと思っております。パンフレットは、博物館の教育委員会と相談します。作成や管理、友の会の皆様のご協力をお願いをしたいと思います。

それから1万点から70万点になったので、広くしてもらいたいという壮大な要望をいただきました。場所が今、限られておりますので、年数も経ってきていることもあります。もし今後建て替えとか拡張するようであれば、大きくするとなると引っ越しが必要になるかと思いますが、今より大きくなるように、手狭なのはよくわかっております。その時には友の会の皆様にご相談をしたいと思います。

参加者Cさん

蔵おこし湧々という倉敷川を自然豊かな清流にしていきたいという活動を15年ぐらいしています。今年は市の補助をいただきまして河津桜の根元の所、そちらに菜の花を植えて菜の花ロードにしていきたいということで活動をしております。その他にも親子で入ろう倉敷川とか。倉敷の親水公園の所から児島湖までを船下りで、子どもさんたちや色々な方と一緒に、非常に自然も豊かですし、水質調査や環境調査をしながらしているんです。藤戸まで行ってたんですけど、藤戸から親水公園までがヘドロが多すぎて、今は船が上がってこれなくなっています。スクリューに絡んでしまっ。ヘドロと言うかごみを取っていただかなければ、子どもが安心して入れるような環境ではありません。洪水になった時にはヘドロが倉敷川の美観地区の町並みにも押し寄せてくるかも知れないと考えておりまして、そのヘドロのことを何とか考えていただきたいということと、観光客の方などにアンケートをいたしますと、やはりここは世界的にも有名な観光都市なのだから、きれいな水の流れる川であって欲しいというのがあります。水には水利権というのがありますけれど、水が流れるようなことを考えていただきまして、あそこは観光の船も出ていますし、きれいな水が流れ、また親水公園から藤戸まで屋形船なんかも出せて、市長さんと一緒に鍋をつつけるような、観光としても倉敷に一泊できるようなことを考えていくのも大事なことでないのかなと思うのと。

もう一つ、私は景観審議会に入っているんです。色々なマンションができていますけど、高さを守らない建物が結構多くあります。それと大きな建物であっても敷地に緑を設置されないという所もありまして、何回か審議委員の中で意見が出て、あまり耳を傾けられないところもあるんです。建築許可が下りるものですから、なかなか耳を傾けられない。また、前例があるということで高さ的にもあまり守られない建物が次々出来てきたり、特に緑のことは大きな建物であったら必ず緑のスペースを造って、周りの住民に配慮

した形でないと許可を下しませんよという市の条例みたいなものにしていただいたら、違法というか、守らない企業が少なくなるんじゃないかと思います。是非ちょっとそのあたりをご検討いただけたら、倉敷市内に緑が、豊かな環境が作れると思いますし、先ほど酒津からのみらい公園の話もできましたけれども、市民が気持ちよく散歩できるような、今日折角コスモスをいただきましたので、例えば酒津からみらい公園までコスモスロードを造るとか、そういったことも含めて市が緑のことを大事にしているんだとアピールしていただけたらありがたいと思います。

市長

倉敷川の藤戸あたりの所、倉敷川は下流の方へ行くと結構これまでの歴年のことで、ヘドロと言いますか土砂が溜まっておりまして、流れが悪くなっているというのもあると思います。これは県の管理ということで、県にも色々お願いはしているんです。お願いする時に一番言われるのは、下流の方から取って行かないといけないということになると、児島湖のことになってくるので、児島湖の対策の方も何十年かに1回、下に溜まっているものを全部取ってくださるというのもあるので、それについては市も強く要望していこうと思っています。直ぐに藤戸の川の堆積物を取るというのは難しいかと思うんですけども、その重要性はよくわかりますし、また洪水になりやすいという原因にもなっていると思いますので、よく点検して県とかとも、よく相談をしていきたいと思っています。また倉敷川につきましては、子どもさんとかとも一緒に入って清掃活動にもご協力いただきまして、本当にありがとうございます。何百万人も観光客の方が来られる場所ですので、なるべくきれいな川にと思っております。気持ちは一緒でございます。観光コンベンションビューローや皆さんのお力もいただきまして、少しでもきれいになるようにと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。水利権のことも勿論あるので、抜本的に水をどんどん流してくださいというのは難しいところもあるんですが、少しでも水をもらえるようでしたら、流してもらえるように交渉はしていきたいと思っています。最近、柳が茂りすぎておりますので、今度切ろうと思っていますが、景色が見えにくくなっておりますので、しっかりやっていきたいと思っています。

景観審議会では大変お世話になっておりまして、建物には一定の規制がかかっておりまして、市には勿論景観条例、背景保全条例があります。ただ、今それだけではちょっと足りないような状況になってきているかなという認識を持っています。行政指導は法律ではないので聞いてくれない業者の方も、結構外から来られる方であると聞いているんです。今より少しでも良くなるように、中橋とか今橋から見る風景があまり変わらないようにできればという気持ちは皆さんと同じでございますので、今後ともよろしくお願い致します。

参加者Dさん

倉敷芸術科学大学におります。今、倉敷の自然をまもる会の顧問もさせていただいております。今日、市長さんに知識の片隅に置いてもらいたいのは、今、みらい公園だとか酒津公園とか、それから倉敷川とか言われて、倉敷市も色々な所に公園があって、すばらしいと思うんですけど、緑と花がある。それはそれで、我々一般市民の人にとっては、素晴らしくていいことだと思います。ただ、ちょっと市民憲章にいちゃもんをつけるわけではないんですけど、自然を生かして、花と緑のあるきれいなまちを作ります、と書いて

あります。緑と花があってきれいであれば豊かな自然、とは我々は思っておりません。そこに豊かな、というのが一文入れば、完璧だったかなと思うんですけど、1行で表すにはちょっと難しいかなと。園庭の花を植えたり、植物、緑を植えたりするのが、本当に自然ないい環境だということではないと思うんです。一般の人はそれでいいかとは思っています。自然史博物館で色々勉強することも大事ですし、一方では必要です。それだけでは完全ではない。もう一つその上に、子ども達または一般市民が歩き回って、自分自身で体感をして、自然の大切さとか、楽しさを感じてもらう場所が必要かなと。倉敷市でもいくつかあるんですけど、ちょっと中途半端で、まだまだ他の都市に比べれば、そういう場所が少ないだろうと思っています。そういう所を増やして、子ども達に自由に遊んでもらう、候補が今二つ、我々のところであるんです。以前から、色々な所でお話をしているんですけど。

一つは市民提案事業で、第1回目で資金をいただきまして、市の土地なんですけど、大きい放置されていた土地をお借りしまして、そこを自然広場ということで、昔は倉敷の奥座敷、秘境と言われていた所ですけども、かなり荒れてまして、そこを開発して、提案事業でお金を少しいただいて、我々の助成金をつぎ込んで、自然をまもる会、友の会の方たちと一緒に草刈りをして、簡単な道をつけてみんなで走り回れるようにしました。そこを色んな方が調査して下さると、鉱物、植物、昆虫、色んな物がどんどん見つかってきてまして、全国から随分注目されているものも結構たくさんあります。だから、そこに手を加えて、幸いに今年から草刈りを市でしていただくようになりました。我々専門家やボランティアでやっている者も年を取ってきているので、市の介入が少しあればいいかなと。

もう一つ、これは大きな話になるんですけど。酒津公園は公園に芝生が植えてあって、バーベキューしたり水遊びバチャバチャするにはいいんですけど、本当の自然ではなくて、公園です。ちょっと残念なんです。その駐車場を渡って高梁川の河川敷、八幡山の辺の所を、倉敷であまり手つかずで残された唯一の所ではないかと思えます。柳井原の架橋が出来て、宅地の開発業者が入り込む可能性もあるわけです。今なら手を付けられるかなと。またこれは倉敷だけで手におえるものじゃありませんので、その辺を何とかならないかなと考えておいてもらえれば。本当は、流れ橋のような沈下橋のようなものが、歩いて渡るには最適じゃないかなと思えます。すぐに回答は難しいと思うので、考えていただければと思います。

市長

ありがとうございます。奥西坂の所のことだと思いますけど、大変お世話になっております。市でできることはやっていこうと思っています。それから八幡山は、ちょっとすぐ前に進むというのは難しいですが、また新しい橋もできますし、それから柳井原の所も変わってきますので、環境も変わってくると思います。まちづくり計画の中でも、どういう方向にするかというのはまだこれから検討していく必要があると思います。

参加者Eさん

今日は市長さんとのトークだと思ったので、あまり資料は持ってきてないんですが、先ほど言われたように、自然がまだ未開発で残っている所というのが、帯江銅山がかつてあったところ、中庄地域に。自動車学校に一部使われてますけど、ほとんど里山は荒れています。帯江銅山の跡地に、今は緑でいっぱいなんですけど、あれは地元民が20年かけて松を

植えたんです。ですからあそこの山は、大変松が多いんです。その後に、自然かどうかはわからないんですけど、つつじが結構多かった。ですから昭和9年の観光案内書には、酒津の桜、それから帯江銅山のつつじの名所となっています。それは観光パンフだけじゃなしに、さっき言った岡大の自然植物科学研究所の地図にもあるんですけど、それ以外には、昭和山陽新報なんかにも載っています。中庄駅ができるときには、駅周辺の名所として、中庄帯江銅山のつつじの花と載ってるんです。今度私どもが3年前から、地域のみんなでまちづくりという大きなテーマで、そういう自然をもう少しきれいにしよう、里山の荒れた風景をなんとか住民でしよう。市の財政はこれからも大変だし、孫・子の代に負債を残すのは僕は大嫌いで。倉敷市だけでも健全財政を目指して、住民運動できれいなまちをしていく。先ほどの方が言っていましたけど、児島の元教員の方が応援してくれて、子どもたちと地域と、苗木が3年でこれぐらい、大体20年計画ぐらいですけど、岡山は岡大と国の土地の天目山でつつじの再生をやっているんです。ここは国の関係で、県がやっていると思いますけど。倉敷市では、私どもも自分たちの力で始めれば一番いいだろうと思いますので、ですからちょっと注目してもらいたい。

市長

今度9月9日から12日まで、市役所の1階で写真の展示会をされるんですね。

参加者Eさん

つつじ山の再生プロジェクトの運動の、初めて招待をしようと思ったりします。まあぜひ、先ほどどなたかも言われたけれど、市長の後押しって言うんですか、声だけでいいですから、後押しをしていただけたら。メッセージをいただけたら一番いいんですけど。よろしくお願いします。

市長

本当に、こういう形で皆さんが色々な観点で、海だったり山のつつじだったり、自然だったりというのを注目して下さって、それを自分の地域の歴史と合わせて発信をしていただけたらというのは、大変うれしく思っております。本当にありがとうございます。そういう活動が市の自然を生かしたまちづくりというのに繋がっていくと。中庄の歴史を語り継ぐ会の本を作っていたいただいてありがとうございます。どうもありがとうございました。

参加者Fさん

今日市長にこういうことを言ってみよう。小学校で倉敷のことを教育したらどうかと考えとったんです。道徳とか教育とかじゃなくて、歴史の中で美観地区であるとか、鷺羽山とか、児島とかを教えていったらどうかと、それが一つ目。

次は、環境と言うか、花とか植えるのはいいんですけど、やっぱり自然の山とか、生坂なんか行くと、山の松はほとんど枯れとります。ご存じないかもしれないけど。昔松くい虫が来たときに、本当は消毒しとけばよかったんだけど、住民とかの反対とか何とかできなくて、ほとんど枯れていたという話も聞いております。本当かどうか知りませんが。事前に住民の方に話をしてきちんと対応しておけば、こういうことにはならなかったのかなと思います。それから、田畑というのもきちんと守っていかないといかんと思う。最近

住宅になっているところが非常に多くて、田とか畑をやらない人が非常に増えとるんじゃないかなと。それを守るためにはどうすればいいか。その解決策というのは道の駅みたいな、地産地消というのが非常に有効ではないかと考えております。それが2点目です。

あと、鳥、カラスが非常に多いです。昔はあまりいなかったです。100羽単位で畑や田んぼをうろろうしてます。倉敷から岡山まで行くのに2か所ぐらいにそういうのを見ました。イオンの南の道路です。あと、シラサギがものすごく多い。一時期、駅の南の交差点にフンがすごかったんですけど、中国電力に言っていただいて、それも駆除したわけじゃなくて、分散してるだけです。駆除していただきたいなと思う。ただ、親を殺すと大変なんで、卵を駆除すればそういうふうにならないという考えです。

最後に、これは自然を生かすどころとはちょっと関係ないんですけど。山を崩したり、非常にそういうことが多くて、災害も増えとるんじゃないかと。広島、隣の県ですから、いつあんな集中豪雨が来てもおかしくない。私はもともと山口県ですけど、実家の方が5年ぐらい前、家の裏が崩れて下まですごく大きい木が流れて来とる。120か所ほど崩れとる。老人ホームで10何人くらい確か死亡されてます。いつ何時そういうのが起こってもおかしくない。だからハザードマップを作ったからOKじゃなくて、どのタイミングで避難命令とかを出すとかいうのは、広島みたいに災害が起こってから4時間後じゃ話になりません。何か監視するシステムを作って、そこがこうなったら避難命令を出すとか、リアルタイムで出来るような仕組みがあるのかなと。非常に難しいと思いますけど、やればできんことはないだろうと思っております。たくさん言いましたが。

市長

はい、ありがとうございます。最初に言われた歴史を教えるということと、災害が増えているということについて、お話をしたいと思っております。先ほどの方もおっしゃっていましたが、地域の歴史を教える、みんなが知るということは非常に大切だと思いますし、この自然を生かすというのも、倉敷市のまちとか、もっと広く言えば、岡山平野の成り立ちとかにも関わってくるんじゃないかと思っております。なぜ児島や玉島で、また倉敷紡績が、綿花とか、そういう産業が発展したのかということ、それからなぜ自然史博物館の1階の入口の所にナウマンゾウの模型があるのかとか。私も詳しく教えてもらって、なるほどと思ったんですが、今あります瀬戸内海は大体6000年ぐらい前までに、海になったということで、今から2万年前ぐらいは広大な草原だったわけでございます。ナウマンゾウとかがたくさん走ったりして、今よりも海のレベルが100mぐらい低かったと伺っております。瀬戸内海の所は草原で、ナウマンゾウとかが走っていたので、下津井の漁師さんの網に、たまにナウマンゾウの化石なんかがかかったりするというので、元々はそういう地形だった。この数百年の海になった後に、児島や玉島や水島の所が、高梁川からの土の沖積作用で、今の倉敷の岡山平野が出来てきたということなど、そういうことも含めて、子ども達に幅広く知ってもらおうようにするというのが、自分たちのまちの成り立ちを教えるということじゃないかと思っております。

また、災害のことは県北に比べると山が少ない方だと思うんですが、倉敷市内にも土砂災害の警戒区域もございます。今回の広島のようなところは少ないかと思っておりますが、今一度、建設局にも見直しをして、また地域の皆さんといざという時にどう避難するかということを具体的に進めるように話をしております。本当に最近集中豪雨が多いので、降

り始めて数時間以内で100ミリを超えるような雨が降った場合には避難勧告を出さないといけないような状況に、なっているんじゃないかと思っておりますので、災害のことも含めて、自然の驚異という面でも一緒にやっていきたいと思っております。

参加者Gさん

水島から来ました。私は、自然を生かすが、きれいな花ではなく、雑草のことを言いたいんです。セイタカアワダチソウは大分少なくなりましたが、ヒメムカシヨモギというのがまた増えております。セイタカアワダチソウは黄色い花が咲く。休耕田とか線路沿い、操車場にあるのは、近いうちにみらい公園に大分飛んでいくんじゃないかと思って。私がいつもウォーキングしておる水島中央公園、噴水をやめて芝生にするそうですが、あそこはヒメムカシヨモギがほっとくと生えると思うんです。倉敷駅を出てすぐのイトーヨーカドーの下に細いグリーンベルトがある、そこにヒメムカシヨモギが、雑草が生えとる。私は市民広聴課に去年10月に電話して、あそこを切りましょうやと言った。切ったかどうかその後行ってないんですけど。近くではバス停の向こうに100坪ぐらいの土地があるんですが、あそこにも雑草、ヒメムカシヨモギが20本くらい生えとるんです。市に言ったら、個人の土地だからそんなことできんと言われましたけれど、草をとった方がいいと思います。草も自然の内だと言われる方がおられるかもしれませんが、セイタカアワダチソウとかヒメムカシヨモギはぜひ、市の職員が見たらそれを切る。私は自転車をよくでるんですが、自転車に鎌を持ってまして、鎌で切るんですけど、よその家の個人の庭まで切るわけにはいかない。しかし個人の庭先にもああいうものが出て、何とも思わん人もいます。私、花より雑草が気になっていけません。近くの会社の駐車場や社宅には、電話します。近くの財務局や郵便局の敷地にも言います。近くは言います。

もうひとつ。ヒラドツツジが水島中央公園で去年枯れました。水島支所でも去年20本ぐらい枯れましたが、今年言うていこうと思うたら、今年は幸い雨が降るからあまり枯れないんですけど、水をやったり雑草を取ったりしてもらいたいんです。

市長

はい、ありがとうございます。外来種の駆除についてはなるべくやらないといけないと思っております。植物もそうですし、魚もそうですけれども、なるべく日本の元々の生態系に影響がないようにしていきたいと思っております。ありがとうございます。

参加者Hさん

先ほどからみらい公園の話がよく出るんですけど、今日も、毎朝歩くんです。一度市役所をお願いして、芝生を植えていただいたんですけど、真ん中の辺がものすごく土ばかりになっとなんです。1年ぐらい前をお願いして、芝生を植えていただいたんですけど、何人かウォーキング仲間と一緒に草を抜くんです。草に負けとるんかどうか知りませんが。上の方、高台の所から見ると、真ん中辺が土ばかりが目について、最近観光客の人も結構あの辺行くんです、駅に近いから。そうすると、以前も僕言ったと思うんですけど、あの立派な駅の近くに公園が出来て、すばらしい。でも、草が生えてるし、土がいっぱい出てるのは、ちょっとみっともないんじゃないかというようなことを言われましたので。1年以上経ちましたので、芝生を入れていただいて、お金がかかることだとは思いますが、

倉敷市の玄関に近いです。だから、倉敷市の恥にならないようよろしくお願いします。

それと、やっぱり自然を生かすということは、みらい公園も立派ですけど、やっぱり倉敷は美観地区、特に大原美術館の前、既に紅葉が始まっています。素晴らしい所なので、美観地区を生かすような、自然を生かすようなことを皆さんが、市民全体で、特に大人がするようになれば、子どもが真似をすると思いますので、よろしくお願いします。

市長

はい、ありがとうございました。芝生が、公園が出来てから1年ぐらいの時も、最初は水はけの関係で、水がたまってからそこだけちょっと木や芝生があまり育たなくなったりしたんですが、1回植え替えをしまして、おかげさまで大変皆様にご利用いただいておりますので、芝生がとれるようなところも出てきております。観光公園としての役割も果たしているのですが、ちゃんときれいにしなきゃいけないと思っております。ちなみに、倉敷みらい公園に行ったことがある方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか？（挙手）9割ぐらいの方に行っていたいております。ありがとうございます。

参加者Iさん

倉敷市立自然史博物館友の会の者です。私は鳥が好きなので、バードウォッチングをよくしています。自分だけではなくて、周りの方々、友の会などで、ご案内をして、皆さんと一緒にできるだけ市内の色々な所を見てます。ふれあい公園でもバードウォッチングとか、ご近所バードウォッチング、溜川バードウォッチング、そういうふうにやってるんですけど、倉敷市内は一応12か所に探鳥コースというのが設定されています。使わせていただいているんですが、行っても、桜の時期以外とかに行くと、あまり利用されていない、というのが実情なんです。せっかくそういうのを作っていらっしゃるのに、もったいないなと言いつつ帰って来ているんで。もう少し学校でPRしていただいて、活用していただけたらなと思います。

それと、倉敷みらい公園ですが、野鳥を33種類、確認しております。ここがとても自然豊かとは私も思えないですが、いきなり若い、小さな子ども連れのお母さん方に、自然の山に行きましょうとか言うと、蛇が出る、蜂が出る、毛虫が怖い、とかいう感じになって引いてしまわれるので、そういう方には、ちょっと買い物ついでとかということで、来ていただきやすい所なので、自然観察の第一歩の場所として、活用していきたいと思っております。先ほど友の会会長の方から、パンフレットということもありまして、雨に濡れたらと言うお話もありましたので、ガラス張りの掲示板みたいな、今、こういうものがここで見れますよというような、そういうものでもあれば、私たちはよく行っていますので、行く度に更新して、案内ができるかなと考えていたところです。

市長

探鳥コース、ちょっとPRが不足していますね。もっとPRに力を入れてまいります。ありがとうございます。続いて、岡大の研究者の方から、今年100周年なんですけど、どんな研究をしているのかとか、比較的市民の方も知っている人が少ないと思うんで、一言PRをお願いできませんでしょうか？

参加者 J さん

岡山大学・重井植物科学研究所に所属している学生です。私が行っている研究なんですけど、イネにおけるヒ素の集積機構・蓄積機構の解明という研究を行っております。皆さんヒ素と言いますと、あまりいい印象じゃなくて、和歌山の毒入りヒ素のカレー事件であったり、そういうもので危ないものだ、という認識があるのかと思いますけど、あまり身近でないのかなと思っております。実際日本でも昔、島根の津和野町近辺（注）では非常に高濃度のヒ素が土壤に含まれておりまして、それに関してはもう既に莫大な費用をかけて、土壤の改善を行って、今は問題になっていないんですけど。バングラデシュ、インドの北西の方にある国であったり、インドの西の方では、いまだ高濃度のヒ素が、土や地下水に含まれておりまして、その方たちは、日本同様コメを主食にして暮らしておりますので、それらの方たちは環境中のヒ素を吸収したイネ・コメを食べることで、非常に大きな健康被害が生じています。その健康被害をできるだけ抑えるために、イネのコメに、ヒ素が集中するのをどのような機構で起きているのか、ということを実際調べておりまして、それらで分かったことを実際に現地で確認して、ヒ素を吸収しないイネを現地で育てて、ヒ素の病害から現地の方を守るようなことを期待して、研究を行っています。

参加者 K さん

同じく、倉敷の研究所の者です。僕の研究としましては大麦の病害、農家の方がおられるかわからないんですけど、様々な病害におきまして、収量が落ちたり、ということを考えまして、大麦におけるある一つの病気の抵抗性について、メカニズムを調べるという研究をしています。

最初市長さんも言われたように、あの研究所では何を研究しているのか、なかなか分かれる方はいないと思いますが、今回この自然を生かすまちづくりというテーマで来させていただいているんですが、僕は今大学院ですけど、大学時代は岡山市内にある岡山大学の本キャンパスにいました。そちらでは、農学部の敷地もなかなか広いということで、秋には保育園とか幼稚園とかの子供たちが芋ほりに来るとか、キャンパスの一部の圃場を市民の方に年間いくらか、とかで貸し出して、学校の用品で作業をしてもらおう、ということも取り組みをされておりました。しかしながらここは、なかなかそういうのには難しいのかなと、内側にいる僕も、実際感じます。なので、社会貢献活動ではないんですけど、社会の人とあちらの研究所と一緒に何かをやっていくというのが、僕の立場として何か言えるわけではないんですけど、そういうのができたらいいなというのは感じます。

参加者 L さん

私は大麦の地域適応を見ていまして、世界中から集められた大麦の塩に対する応答を見えています。春に大麦が研究所の周りで育っているのですが、4月から6月是非見てください。今は稲なので違うのですが、11月から蒔いて。大麦を見れる機会はなかなかないと思うんですが、1回、春先に気を付けてみていただければおもしろいと思います。

市長

我々市民にとっては、1年に何回も刈り取りをして、麦とか稲を作っているんで、それごとに研究が違うんだろうなとは思っているんですが、なかなか、内容を知ることがない

もんで、難しかったんですけども何となくわかりました。麦をどうやったら、もうちょっと丈夫にできるとか、それから稲もどうやったら、ヒ素を吸収するのを妨げるような解析ができるか。それができれば、安全なお米ができるでしょうから、日本もそうですけど、世界の農業にも非常に役に立つ研究をされていると思います。是非頑張ってくださいと思います。せっかく倉敷の中心的な場所にあるので、そういう意義のあることをやっているということが、もう少し地元の市民にもわかってもらえるようなことをしてもらえたらいいなと思っています。またお願いしようと思っています。

参加者 M さん

西富井から参りました。実は私は昨年、倉敷市から補助をいただいて、防災士の資格を取らせていただいて。仲間は61名おりましたけれども、一人ではなかなか防災士というのは色々なことができません。この8月、倉敷市防災士有志の会を立ち上げました。まだ世間には馴染みのない名前です。なかなか浸透はしていないと思うんですけども、自主防災組織とかのお手伝いをすると。来たるべき南海トラフのために、今日のテーマとちょっと違うのかもしれませんが、大きな自然を相手にした、生きるか死ぬかというテーマがありますので、我々の組織が色々なお手伝いをさせていただくという趣旨で、市もやられたんだと思います。我々もその期待に答えたいと、今年も51人の防災士が、まだ試験が終わったばかりで、発表はまだらしいですが、段々倉敷市も力を入れていただいて、できつつあります。ご存じかと思いますが、倉敷市の自主防災組織は50%をちょっと超えたくらいで、全国的にも一番ケツです。岡山県は温暖な気候で、地震とか災害には強いというか、起こらないから、難しいんですけども、南海トラフ地震は必ず30年以内には50%の確率でくると言われていますので。是非そのためには、色々な自然の大きなことには勝てませんので、それをうまく利用して、助かる方法を考えようということで、我々の会を立ち上げました。これから色々な所を回らせていただくとお思いますので、是非ご協力をお願いします。防災危機管理室の職員にご協力いただきまして、立派な会を作らせていただきました。この場を借りてお願いいたします。

市長

ありがとうございました。防災士として、自然を生かすということで、自然の良い面も当然多いわけですが、今お話しいただいたように、非常に厳しい面もございますので、両方ともしっかり踏まえて、やっていかないといけないと思っております。

参加者 N さん

みらい公園にホテルを憩う会でボランティア活動をしている者です。先ほど、みらい公園にパンフレットをとということで散策マップのご依頼があったと思うんですけども、そこへ是非ともホテルのほうもよろしくをお願いします。

市長

散策マップを作れるようになりましたら、是非、ホテルも見れるということなので書きたいと思っております。本当に皆さんが色々なご協力をしてくださって、野鳥が見れるとか、魚、虫、ホテルが見れますとか。これだけの大きな都市の駅の前で。今年は何匹くら

い見れたのですか。(3匹くらい)これからですね。酒津の、倉敷用水と同じ水系ですので、自然のホタルの生態系が壊れないようにして、よろしくをお願いします。

参加者0さん

こんにちは。倉敷野鳥の会のものです。日本鳥類保護連盟という、岡山県支部がございませうが、毎年、県下全体から写真を応募いただきまして、今年はずたまたま私も審査をさせていただきます。そういう中で、今日ここに3点展示してありますけれども、倉敷市内の人で、入賞したものだけを、是非というお話がありましたので、ここへ展示をさせていただきます。写真を応募していただいた人に説明をしてもらうのが一番良いのですが、私が代わって申し上げます。真ん中のがカワウです。カワウといたら、鮎をとるので、大変評判が悪いです。評判が悪いですけれども、カワウが海の魚のダツを取っている、これは大変めずらしい写真でございましたので、応募作品の中で知事賞に、一番上のランクです。場所は高梁川の河口のところで、海に近い所です。それからその次の特選が、イスカという鳥です。大変めずらしいんです。これは、春渡ってきて、秋には帰る。特徴はくちばしがまるで捻じれているんです。倉敷野鳥の会でも、これまでの探鳥記録でイスカはなかったんです。まつぼっくりを上手に口で開いて、松の実を取って食べるんです。ところが最近松が枯れたとって、大変不自由している。イスカは大平山で撮影した。倉敷市内には大平山が2か所ありますが、倉敷ではないんです。この大平山は吉備中央町です。それから、最後はオオバンという鳥です。普通年中見かけることができるのはバンですけれども、このオオバンというのは冬しか来ない。冬、倉敷でオオバンはめったに来ることはないです。去年から今年にかけて大変寒かったので、北国では餌がとれない、それで高梁川へ200羽以上やってきた、40cm位あります。水江の渡し場の所で。

先ほど松が枯れたとおっしゃっていて、大変私も心が痛んでおります。アカマツで桃太郎松という松があるんです。この桃太郎松というのを市長と契約しました八幡山の頂上辺りから妙見山辺りにかけて、200本くらい植えました。今度植えるときに、市長と契約した財産区の山ですから、一緒に行っていただいたらと思っています。高いところにあるとまつぼっくりの実が段々下へ降りてきますから。アカマツの元気なのが育ってくれたらと思っています、今、一生懸命その研究をしております。

最近、サギ類がたくさん増えて、家の庭で金魚を飼っていたのがやられたという人がいっぱいいるんです。なんで、サギがそんなに増えたのかというと。倉敷市内にたくさんある用水路の中に、フナやコイがたくさん入ってきて、昔はフナを取って、フナ飯を作っておったんですが、ところが今はそんなものを食べる人はいないんです。一番喜んだのは、サギ類です。アオサギなんかは倉敷で見ることは一度もなかったんですが、今はいっぱい来て。一番高いところにアオサギが過ごす、それから、チュウサギ、それからコサギ、ゴイサギ。まさに古城池の上がりがけのところは、上から下までサギのコロニーになってしまうんです。周囲の住民が夜の鳴き声でたまらんとって、木を伐ったり、松を利用して、最近松がなえましたから、そういう現象が起こったんだと思います。それから、カラスは家庭ゴミとの関係があって、最近ネットをかけてゴミを囲っているんですが、路上に露天に出しておったもんですから、これも非常にカラスが喜んだ。

探鳥コースの提言がありました、これは市民の皆さんにも憩える場所に、子どもたち

の教育の場という想いで12か所市内あるんです。市長さんがうまく活用できたらと。

最後に一言、たくさんのご意見を今日、私は聞かしていただいた、市長も聞かれたと思います。それに対応できる市の部署、市が全部、金をかけてやれというのではないんです。金を、今私は倉敷地域森づくりの会で木を植えたと言いました。倉敷市からびた一文ももらっていません。緑化基金もあるのに、うまく活用されていない。

もう一つ、花と緑の関係ですが、これは倉敷市で言ったら、公園緑地課が全部担当になってしまっている。公園緑地というのは公園が1000あるんです。この管理と街路樹もやらないといけない。道端に花も植えて、管理もしなければならない。今の人数で、そしてここだけでできるものではないと思っています。

緑も、緑化推進員という中学校区で委嘱していますけれど、もっと課題を与えて、記念樹を配るだけでなく、本当に緑のために頑張りたいと思っていますので。そこらのことを良く整理してほしいと思っています。

市長

今日は自然に関する色々なご意見をいただき、本当にありがとうございました。身近な自然というのは、私たちの市民憲章にもありますけれど、町の自然の営みの大きなものでもありますし、外の方から見られての倉敷市の大きく印象を決めるものでもあると思っています。一方では、自然の驚異にもなり、自然の豊かさということにもなると思っています。今日は色々な面から皆さまのご意見をいただきましたので、今後の市政の色々な点に活用させていただければと思っています。ありがとうございました。